

おとしより相談センター活動実績(小地域ケア会議)

※小地域ケア会議とは

支援困難事例等の支援内容の検討を通じ、ケアマネジメント実践力の向上、地域のネットワークの構築、地域課題の把握を目的とする会議体。

(1) 検討テーマ、実績

包括名	テーマ
板橋 仲宿	必要と思われる支援の導入が難しい多問題世帯への支援
仲町 熊野	子供がおらず、身近に支援者もいない高齢者夫婦への支援について
富士見	身寄りのない認知症を患った独居高齢者と地域の関わりについて
大谷口	本人とケアマネジャーの意向が一致しないため、生活の質の低下が心配される独居高齢者
常盤台	物が片付けられないが、警戒心が強く他者の介入が難しい事例
清水	孤独死を防ぐには
	血糖コントロール不良で入院を繰り返す統合失調症の女性と、透析を長年受けている兄への今後の支援について
志村坂上	飼育の知識もなく11年前犬を購入したが、夫婦ともに認知症、身体的低下などにより、十分な対応が出来なくなっている高齢者夫婦の支援について
	利用者の生活に必要な行政手続きなどをケアマネジャーはどこまでお手伝いすべきか悩んでいる
中台	認知症がある母と持病のある息子が孤立せずに地域で暮らしていくためには
前野	飲酒を止められず万引きを繰り返す方への支援について
蓮根	健康面、金銭面の管理が必要で介護者もいない方を今後どのように対応すれば良いのか
舟渡	折り紙のくす玉で地域につながるには
	楽しみの持てる生活を支援するために
	生きがいを持って過ごすには
	子世代の方への支援について(8050問題)
	「隣人に嫌がらせをされている」と訴えるA氏への支援
桜川	本人、結果亡くなったが、関係機関の対応にありがたさを感じた事
下赤塚	「情報化社会と高齢者」～コロナ禍でも高齢者が地域とつながり介護予防をしていくために～
成増	コロナ禍で、本人は意思決定が難しくなった方に対しての生活の場の選択について
三園	「閉じこもり傾向にある若年性認知症の方に対する支援」 ～身近な地域での社会資源を開拓するにあたって～
徳丸	身寄りのない方が在宅生活を継続していくための意思決定のあり方について
高島平	「あたり前の日常生活ができなくなってしまった高齢者の生活をどのように守り切ることができるか」～認知症独居高齢者を地域で支えるための課題・視点について考える～
計	実施回数 21回 23事例 参加者数 368名

(2) 会議出席者

おとしより相談センター、おとしより保健福祉センター以外の会議出席者（機関）の延べ参加人数は以下の通り。

主任介護支援専門員	98人
介護支援専門員	49人
訪問介護事業所	7人
通所介護事業所	4人
福祉用具専門相談員	3人
地域密着型サービス職員	4人
民生委員	18人
町会連合会、町会長、自治会	1人
老人会、老人クラブ連合会	1人
有償ボランティア	2人
地域住民代表、支え合い会議、福祉の森サロン関係者	10人
生活支援コーディネーター	8人
社会福祉協議会、権利擁護サポートセンター職員	10人

医師・歯科医師	2人
薬剤師	1人
訪問看護	5人
MSWなど医療機関相談員	4人
PT・OT・ST等のリハ職	3人
医療機関研究員	4人
警察署（ふれあいポリス）	5人
ボランティアセンター職員	4人
障がい者センター、発達障がい者支援センター職員	2人
板橋法曹界弁護士	3人
福祉事務所、健康福祉センター職員	4人
地域の店舗	1人
UR都市機構、都住宅供給公社・管理会社	4人

(3) 事例から見た地域課題

23事例から見た地域課題について、記載があった36の課題（重複あり）は以下の通り。

地域課題	課題数	%
ケア（医療、介護、リハ、住まい、生活支援など）が不足している	16	70%
ケア提供者の実践力や連携が不足している	6	26%
地域の方の理解が不足している	9	39%
その他	5	22%

(4) 地域課題の具体的内容

- ① 支援者の実践力や専門機関との連携など
- ② 認知症に関すること
- ③ 医療・介護連携など
- ④ 見守りに関すること
- ⑤ 通いの場や交流機会など
- ⑥ 相談に関すること
- ⑦ インフォーマルも含めその他サービスに関すること
 - ✓ ゴミの片づけ、火災警報機設置
 - ✓ 8050問題
 - ✓ ケアマネジャー以外の担い手不足
 - ✓ 社会資源の不足、臨機応変に使えるサービスの不足
 - ✓ 若年層への福祉サービス